

リハビリで榎本投手支え

先発した榎本投手は昨年6月に肩を故障したが、昨秋の近畿大会で4カ月ぶりに登板し、この日も7奪三振の力投を見せた。その復活劇をリハビリで支えたのが「行岡病院」(大阪市北区)の理学療法士で、元高校球児の福田明雄さん(34)。この日は仕事で観戦できなかったが、インターネットで試合経過をチェックしながら、京都翔英のエースを気遣った。



榎本和輝投手

福田さんは96年の夏の甲

理学療法士 福田明雄さん (34)



榎本選手のリハビリを支えた福田さん

子園に宇都宮南(栃木)の3番ショートで出場。理学療法士が球児に試合後の体操を指導するのを見て、この道に進んだ。センバツでも「メディカルサポート」スタッフとして23日にネット裏で待機し、選手をケアした。

榎本選手の治療を担当したのは昨年8月。肩の関節が不安定だったため、肩甲骨の周りの筋肉を鍛える運動を指導し、自らの野球体験も話して「やるからは甲子園を目指せ」と激励した。榎本選手は「話を聞き、自分も甲子園に行きたいと思った」と振り返る。

センバツ開幕前日の21日、4カ月ぶりに診断に訪れた榎本選手に、福田さんは「筋肉が硬くなっている。しっかりケアして、勝ってきて」と激励した。

この日の試合で6失点し、4番打者としても3打数無安打だった榎本選手は試合後、「福田先生に申し訳ない」と肩を落とした。しかし、福田さんは取材に「接戦で、いい試合だった。また、次の目標へ頑張ってもらいたい」と、夏に向けエールを送った。

【村瀬達男】

毎日新聞WEB版はこちら

<http://mainichi.jp/area/kyoto/news/20130327ddlk26050562000c2.html>